

海外研修者との交流とフィジカルアセスメントプログラムの参加

History Taking and Physical Assessment

University of North Carolina Chapel Hill School of Nursing in America, North Carolina

2015.7.20-7.22

看護コース 4年 近藤真代

渡航先での活動内容



看護技術(フィジカルアセスメント)プログラムの参加

プログラムの目的

1. 問診：主観的な患者の健康状態(主訴、現病歴、既往歴など)について情報を得ることができる
2. 視診、触診、打診、聴診の4つの方法を用いて、特定の身体機能のフィジカルアセスメントを実施できる
3. 全身の身体検査を行える
4. 身体機能の正常や異常を正確に記述できる
5. 解剖学・生理学の原理とアセスメントの過程を関連付けることができる

プログラムの内容

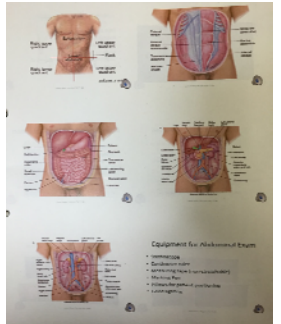
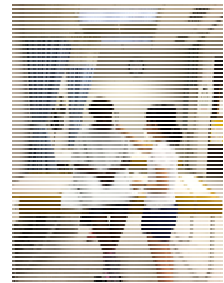
1. 事前学習：Online modules(患者への問診、解剖学・生理学やアセスメント方法などの資料、講義音声付の動画)
 - ①解剖学・生理学に基づく問診の基礎を学ぶ、②学部生レベルのアセスメント能力を身につける

2. Lab practice

受講生同士で毎回異なる人とペアとなり、教科書やフィジカルアセスメントの評価基準を見ながら、NPの指導のもとフィジカルアセスメントを演習する。1日の最後にフィジカルアセスメントを実施し観察できたことを記述し、先生に提出、翌日フィードバックを受ける。

<スケジュール>

- 1日目(午前)：インストラクターのデモンストレーション
皮膚、毛髪、爪、頭、頸部、リンパの演習
(午後)：眼、耳、鼻、咽喉、神経系(脳神経)の演習
- 2日目(午前)：肺、胸部、心血管系、腹部の演習
(午後)：筋骨格系、神経系の演習
- 3日目(午前)：人形を用いた生殖器の観察
(午後)：フィジカルアセスメントの試験



海外看護師との交流

海外研究者(看護学科 准教授 余善愛先生)との交流

日本と海外での生活や習慣の違い、それが与える健康や社会への影響、看護師として海外で働くための仕組みなどを学ぶことができた。

目的を達成できたか

<達成できたこと>

- 視診、触診、打診、聴診の4つの方法を用いてフィジカルアセスメントを系統的に実施し、頭からつま先まで包括的な身体検査を学ぶことができた。その結果、異常や正常な身体の状態を観察し記録することができた。
- 解剖学的知識を身につけ、アセスメントの結果と結びつけて考えることができるようになった。
- 海外研究者との交流を通して、海外の大学のシステムを理解することができた。

<達成できなかったこと>

- 英語の勉強不足もあり、看護において重要なコミュニケーションや声かけが上手くできなかった。

グローバルな視点とは何か

- 看護の技術について、どの国でもほとんど共通であることを学んだ。日本ではなかなか経験できないが、外国では様々な人種、国籍の人たちがいるのが当たり前であり、そのような身体的特徴がある中で一人ひとりの身体状態を見るためには様々な知識が必要である。
- 言語が違っていても、表情や動きでコミュニケーションをとることはでき、また看護においてコミュニケーションは非常に重要であると実感した。
- 様々な特徴を持つために多くの知識を身につけ、コミュニケーションを通じて信頼関係を築くことが看護におけるグローバルな視点だと考える。

将来の進路決定へどう影響したか

- 海外の大学の授業の雰囲気を実際に体験することができ、現地の研究者や看護師とお話することができて海外進学について具体的にイメージできるようになった。
- 周りの多くが看護師であったことから経験の差を感じ、自分自身、臨床で働くことに関して意欲を高めることとなった。

目的以外に学んだ点、反省点

- 英語での会話が難しく、英語の勉強不足を痛感した。
- プログラム参加決定から出発までの時間が短く、事前学習を十分に行えなかった。
- 現地で、受講者や先生がとても親切にしてくださり、自分自身の他人への接し方を見直すこととなった。
- 思いやりをもって他人と接すること、感謝の気持ちを相手に伝えることの大切さを改めて実感した。
- 受講者の授業への積極性や先生との関わり方を見ることで勉強に対する意識を考え直すこととなった。
- 受講者同士はもちろん、さまざまな場面で他人への挨拶や声かけをしているのを目にし、日本との違いを感じた。

後輩へのアドバイス

勉強面だけでなく、他にもさまざまな経験をすることができるので、興味があったら行ってみる、何事も経験してみることが大切だと思う。自分自身、英語に自信がなかったが、コミュニケーションを試み、授業に積極的に参加するだけでも、たくさんのことを学ぶことになった。

研修支援制度に望むこと

手続きに関して、海外のプログラムは1年前から募集がかかるとのことなので、早めに海外渡航の参加者を募り決定し連絡するよう現地からの要望があった。また、自分で参加プログラムを決めるというのは難しい場合もあるので、研究室の先生方にご相談できたり、渡航先など情報を提供して頂けたりというような機会があれば、海外渡航に関心を持つきっかけになると思う。